

3. 都市間比較

(1) 平均地積・平均床面積・㎡当たり固定資産税等額

- ・戸建（土地）の地積は、多摩地域や横浜市は150㎡前後だが、特別区は109.4㎡、大阪市は94.4㎡に留まる。
- ・戸建（家屋）の床面積は大阪市が120.1㎡で最も広いが、特別区、多摩地域、横浜市も110㎡前後であり、都市別に大きな差は見られない。
- ・共同住宅（家屋）の床面積は、多摩地域の90.0㎡が最も広く、他都市は80㎡強で同程度である。
- ・戸建（土地）の1㎡当たり固定資産税等額（年額）は、特別区の約1,400円、大阪市の約1,300円が高く、横浜市は約800円、多摩地域は約750円であり、2倍弱の差がある。
- ・戸建（家屋）の1㎡当たり固定資産税等額（同）は、特別区が約980円、大阪市が約970円であるのに対して、横浜市は約810円、多摩地域は約720円である。
- ・共同住宅（家屋）の1㎡当たりの固定資産税等額（同）は大阪市が約1,700円、特別区が約1,600円、横浜市が約1,300円、多摩地域が約1,200円である。

図表 II-1 都市別・1戸当たり平均地積・平均床面積・㎡当たり固定資産税等額

